

調査結果概要報告書

離島の子育ての強みと課題～奄美地区～

2019年7月(Web公開用)

鹿児島大学 amami そだちサポートプロジェクト

離島の子育ての強みと課題～奄美地区～

調査概要

本アンケートは奄美地区における子どもの育ちに関する支援ニーズを捉えることを目的として、同地区で子どもの支援に関わる発達支援機関や療育機関、相談機関、学校関係者 36 名を対象に行われました。

職種	管理者	教員／教育行	指導員など	保育士	相談支援専門	その他
人数 (%)	3(8%)	8(22%)	6(17%)	11(31%)	4(11%)	4(11%)

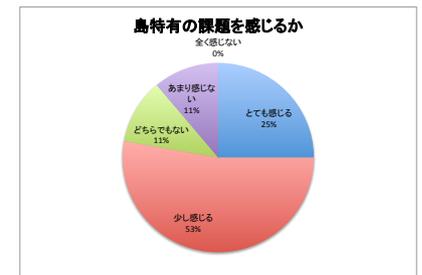
離島は子育てをしやすいのか？

回答者の 96%が島特有の子育ての強みを感じていることが示されました。強みの内容は、地域のつながりを基盤とした子育て環境や豊かな自然の中が最も多く挙げられており、地域の人々の暖かさや子育てを支えるネットワークの強さは島の子育て環境の強みであり重要な資源であると捉えられていることが示されました。



離島の子育ての‘難しさ’とは？

回答者の 78%が島の子育てに固有の難しさを感じていると回答しています。「難しさ」は地域のつながりの強さゆえの匿名性のなさから、周囲の理解を得るまでに時間がかかり当事者が孤立したり必要なタイミングで支援が得られなかったりなどが挙げられました。



教員や支援者は何に困っているのか？

支援者が日々の活動の中での難しさとしては、「子どもや利用者への指導方法の悩み」や「家族支援における難しさ」「制度や環境不足に関すること」「発達障害の理解が不十分であることに対する難しさ」などが示されました。また、今後奄美で必要な支援としては、発達検査や支援者へのサポートなどの「専門的支援」だけでなく、「発達障害等に関する勉強会や講習会」「子育て支援イベント」「相談場所」の確保など、広く地域に向けた取り組みの必要性が強く示されました。

結果のまとめ

今回の調査から、地域ぐるみの子育て文化は島の大きな財産であり、それが子育てのしやすさとして認識されているようです。しかしこれは諸刃の剣であり、人々の強いつながりは強みであると同時に、子に障害等があった場合にはつながりゆえの匿名性のなさにより当事者が窮屈さを感じることもあるようです。

以上から島の強みである人のつながりを生かした支援が展開されたならば、他の地域にはない、奄美地区ならではの子育て支援環境が形成されるのではないかと考察されました。そのためには、支援を必要としている当事者への働きかけだけでなく、地域に住む方々を対象にした子育て支援に関する研修会や講習会、子育て支援イベントが重要であると考えられます。また、地域で暮らす方々や転入者、移住者、当事者の声を幅広く捉えることも重要と考えられました。

※本調査の著作権は amami そだちサポートプロジェクトに帰属しています。調査結果をご利用の際はお手数ですが下記までご連絡ください。amamisodachi@gmail.com